

ひたちなか市 産業活性化コーディネーター 活用事例レポート



ご利用ください

市産業活性化コーディネーター

～ 相談は無料です！ ～

◆産業活性化コーディネーターとは

ひたちなか市が(株)ひたちなかテクノセンターに業務委託し配置している、中小企業支援のために活動する専門家たちです。製造業を中心に、産（企業）、学（高専・大学や研究機関）、官（行政）連携の橋渡し役として活動しています。企業の御用聞き、そして困りごと解決のお手伝いをします。お気軽にご相談ください。

◆支援内容事例

経営力向上

・ISO・KES認証の取得、生産性向上、IT活用の相談

開発力向上

・産学官連携開発、大学・高専・工業技術センター等研究機関の紹介

人材開発

・大学・高専・工業高校・企業OB等の人財支援

販路開拓

・商談会(展示会)や自社ホームページの活用提案、企業のマッチング等

資金調達

・各種補助金制度の紹介・申請支援等

◆ひたちなか市産業活性化コーディネーターの紹介&得意分野

				
みずたに けいいち 水谷 啓一 設計開発 (電子機器、部品) プロジェクト管理 事業戦略 原価企画・原価低減	きし りょうすけ 貴志 亮介 販路拡大支援 各種申請支援 つくり方改善・ 工数削減提案	おやけ やすひこ 小宅 靖彦 (リーダー) 生産管理改革 経営改革 生産管理システムの 構築 拡販支援	おおた ゆきたか 太田 幸孝 機器開発 商品企画 各種補助金等の申請 支援	きのした たかゆき 木下 隆之 マーケティング& 営業戦略立案 ビジネスモデル構築 新顧客獲得 組織開発全般

◆令和元年度実績

企業訪問：1,935件、相談件数：913件、補助金採択：61件

お問合せ先

(株)ひたちなかテクノセンター企業支援部

(〒312-0005 ひたちなか市新光町38)

TEL：029-264-2200 (代表)

FAX：029-264-2203

仲の良い経営者に紹介しました。

- (有)わたなべ製麺所 代表取締役 渡辺栄作さん

研究・開発・拡販の外部部長です。

- アイムス(株) 代表取締役 石井浩一さん

やりたいことがあるなら相談すべき、強い味方。

- (有)黒澤醤油店 代表取締役 黒澤仁一さん

“どこにでもできることではないこと”を積み上げていくチカラに。

- (株)ニシテック 代表取締役 西川知潮さん

当社の強みをさらに強くする支援。

- (株)根本鉄工 代表取締役 根本 博さん

“これから”の優秀さを持ったコーディネーターと未来をつくる。

- (株)あ印 代表取締役社長 鯉沼勝久さん

目指すべき未来につながる支援が心強い存在です。

- アポロアイシーティー(株) 代表取締役社長 岩永美香さん

課題の指摘から一歩も二歩も踏み込み、具体的な行動と一緒に。

- (有)高度技術研究所 代表取締役 清水勲さん

ニーズを先取りしたアドバイスに期待。

- ありがとうグループ CEO 代表取締役社長 住谷まさ美さん

コーディネーターと話す10分間が次の10年につながる。

- (有)石井畳工業 畳一級技能士 石井淳一さん

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート Vol.1】

「仲のいい経営者に 紹介しました。」

有限会社 わたなべ製麺所 代表取締役 渡辺栄作さん



[新型コロナで迫られた方向転換
外食・イベントから中食へ](#)

———今、どのような案件で産業活性化コーディネーターを活用しているのですか？

渡辺 販路開拓のための営業ツールであるチラシを作っています。当社の売上の7割はラーメン店が占めています。また、お祭りやイベントの多いGWや夏休みは書き入れ時。しかし、新型コロナの影響で外食産業やイベントが様変わりし、当社も方向転換を迫られることになりました。新たな販路を開拓しなくてはならない。これからのことを考え、どういうところで販売し、名前を売ったらいいか。そこで産業活性化コーディネーターの木下さんと相談して出てきたのが、「道の駅」やサービスエリア。ここに商品売り込むためのチラシづくりを進めています。

———どのように進んでいますか？

渡辺 木下コーディネーターの勧めで、無料で利用できる「茨城県デザインセンター」を活用し、より効果的なチラシを制作してくれるデザイナーとのマッ

チングをお願いしました。小売業界に強く、長くつきあえて、費用もお手頃なデザイナーを紹介してもらえました。今、課題を整理し、ターゲットにうまく訴求するチラシを作ってもらっています。やはり、プロの視点は違いますね。打ち合わせのたびに学びがあります。

チラシが完成したら、木下コーディネーターが道の駅やサービスエリアに売り込みをかけてくれることになっています。店頭で扱ってくれるようになれば、店頭で必要なPOPや店頭で流す動画など段階を踏んで制作していこうと思っています。こうした展開を考えているので、長くつきあえるデザイナーを紹介してもらったというわけです。

これからはSNSやネットを活用することが大事。こうしたことも木下コーディネーターから教わりました。



[当社の「営業戦略本部」が
できたみたいです](#)

———コーディネーターに厚い信頼をおいていますね。

渡辺 「産業活性化コーディネーター」は市がや

っていることとはいえ、最初は胡散臭いと思っていました。ところが、本当に親身になってくれます。コーディネーターとはこういう人なのかと驚きました。

人柄だけでなく、スキルも素晴らしい。何をやらせられるのか、その方法論の裏付けがしっかりしています。今回のチラシづくりでデザイナーを起用していますが、「デザイン」なんてこれまで考えたこともありませんでした。使ってみたら、その違いは歴然です。

今回助けてもらっているのは、販路の作り方。いくらいいものを作っても、知ってもらい、買ってもらわなくてははいけません。当社には HP はありますが、それだけではダメ。やはり、対面での営業活動が必要で



す。その部分を任せられるのが木下コーディネーター。当社の営業戦略を立て、営業活動まで担ってくれています。

思った以上のことを
してくれます

——これから木下コーディネーターに望むことは何ですか？

渡辺 今までどおりで長くつきあって欲しいです。木下コーディネーターは、補助金のことやデザインのこと、SNS のことなど、私が知らなかったことをいろいろ教えてくれました。

そういえば、補助金でのサポートでは「こういうのがある」と教えてくれ、すぐに申請書をメールで送ってくれたかと思えば、書き方を教えに来てくれ、市役所に提出までしてくれました。それで市役所から「1週間後にお金が降りる」との連絡をもらったときには、本当にありがたかったです。

木下コーディネーターは、私が思った以上のことをしてくれています。だから、「那珂湊焼きそばのれん会」の仲間にも紹介しました。当社だけでなく、みんなで商売がうまくいけばいいなと思っています。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介
木下隆之（きのした たかゆき）
組織戦略と販路開拓のスペシャリスト

技術系の仕事に従事し、27歳のときに自ら営業職に転身。その後転職により様々な業界を経験し、営業マンからプレイングマネージャー、マネジメント職へとステップを踏む。製造、IT、サービス業向けにコンサルティング、人材教育、事業再生の実績多数。経営コンサルタントとして活動する傍ら、2020年4月よりひたちなか市産業活性化コーディネーターとしても活躍中。スピード重視、成果コミット型スタイルで変化に強い組織づくりをサポートします。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.2】

「研究・開発・拡販の 外部部長です。」

アイムス株式会社 代表取締役 石井浩一さん



隣に座って一緒に書いてくれた 補助金の申請書

——産業活性化コーディネーターを活用した経緯を
教えてください。

石井 私たちは「作る」のはプロです。しかし、資金をどう調達するのか、拡販をどうするのか、といった部分はどれも弱い。そこを補ってくれるのが産業活性化コーディネーターです。

当社の担当は水谷さん。もう3年のお付き合いになります。

昨年、「介護記録システム」を自社開発しましたが、開発には「ひたちなか市新製品等開発事業費補助金」を利用しました。この補助金を教えてくれたのも水谷さんです。

こうした補助金の申請では、どこに何をどう書くのか、記入例を見ても分かりづらく、自分で書こうとして心が折れたという人も多いのではないのでしょうか。水谷さんは私が書いたものに「赤ペン先生」のように赤ペンで添削してくれましたし、当社の場合ならどう書くのか、それこそ隣に座って一緒に書いてくれました

た。

また、申請書の次は審査会ですが、プレゼンテーションではどのようなストーリーで、どう表現するのが効果的なのかアドバイスしてくれたり、プレゼン資料作りまで手伝ってくれたり。よく「かゆいところに手が届く」と言いますが、水谷さんの支援はまさにそれです。



人が本業でイキイキするものを 作りたいという「思い」をサポート

——補助金のほかにも事業拡大のためにチャレンジ
したものはありますか。

石井 「Pマーク（プライバシーマーク）」の取得です。個人情報適切に保護している事業者であるこ

とを示すマークです。これからの時代に不可欠と思い、取得を思い立ちました。

しかし、これが大変で、個人情報保護を社内規則に定め、これを従業員に教育、浸透させ、日常業務に落とし込み、審査を受ける必要があり、足掛け1年半かかりました。

この中で、専門家の力を借りなければならず、水谷さんに専門家を紹介してもらいました。また、その費用に補助金を提案してもらい、専門活用に、国のミラサポ専門家派遣と県のエキスパート派遣事業を活用するとともに、市の補助金も活用できました。



——石井社長は時代の要請を見極め、先んじて行動するバイタリティがあります。

石井 最初にお話しした「介護記録システム」は友人からの相談で開発しました。介護現場はいつも忙しい。簡単にスピーディに記録できるものがあれば、浮いた時間を本来の仕事にまわせます。私は人が本業で

イキイキできるものを作りたいと思っています。

システム開発はいわば縁の下の力持ちで、なかなか一般の人の目に触れるものではありませんが、世の中に必要なものを作っていきたい。そうすることで、当社で働く社員にとってもやりがいや誇りが生まれるのではと思います。

アイデアや夢はいくつも浮かんできますが、その実現には資金が必要です。水谷さんはそこを手伝ってくれています。社外のコーディネーターという立場ですが、当社の研究・開発・拡販部門の部長のように思っています。社員も、社長の私より「水谷さんと相談しますよ」と言うくらい水谷さんに厚い信頼を置いていますよ。アドバイスの仕方がうまい、と評判です。

本当は独り占めしたいくらい 親身になってくれるコーディネーター

——水谷コーディネーターに望むことは何ですか？

石井 上から目線で指示してくるコンサルタントとは違い、水谷さんは私たちと同じ目線で親身になって相談にのってくれます。独り占めしたいくらいですが(笑)、他の事業者さんにも本当にオススメしたい。心を開いて相談すれば期待以上のことをしてくれます。活用しないのは損ですね。

当社の社員たちは今、業務を請け負ったクライアント先でそれぞれに仕事をしていますが、いずれ自社ビルを建て、社員揃って社内でオリジナル商品を開発したい。みんながニコニコ笑顔で働ける、地域の皆さんにも「あの会社いいね」と言っていただけ。そんな会社を作っていきたい。水谷さんにはぜひそこの一緒に歩んでいただきたいと思っています。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介

水谷 啓一 (みづたに けいいち)

開発設計 (電子機器、部品)、プロジェクト管理
事業戦略、原価企画・原価低減

大手電機メーカーにて民生用電子機器の開発設計および製品化に従事。
また、社内の開發生産業務の監査や車載用電池の設計開発他も経験。
2018年よりひたちなか産業活性化コーディネーターとして、
中小企業を支援中。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.3】

「やりたいことがあるなら 相談すべき、強い味方。」

有限会社黒澤醤油店 代表取締役 黒澤仁一さん



書類内容を変更して ものづくり補助金に合格

——産業活性化コーディネーターの活用の経緯を教えてください。

黒澤 幸田商店さんからの紹介です。やりたいことがあるのに資金がネックとなって実現できずにいたので相談すると、「こういうのがあるよ」と紹介してくれました。

現在、当社の担当コーディネーターは太田さん。5年ほどになります。ものづくり補助金の申請でお世話になったのが最初です。

——具体的にはどのようなサポートを受けたのですか？

黒澤 申請書の書き方ですね。私はこれまで3回挑戦していますが、いずれも落選しています。自分で書くとどうしても成功事例を並べてしまい、自慢話のようになってしまいます。太田さんにアドバイスをもらい、これから何をやりたいのか、そのためにどれほどの障壁があるのか、という内容に変更し、4回目にしてようやく受けられました。

太田さんはコーディネーターでありつつ、ピンポイントで当社が抱える問題を指摘してくれ、メールや電話ですぐに対応してくれます。

——なぜピンポイントでの確なアドバイスができるのでしょうか。

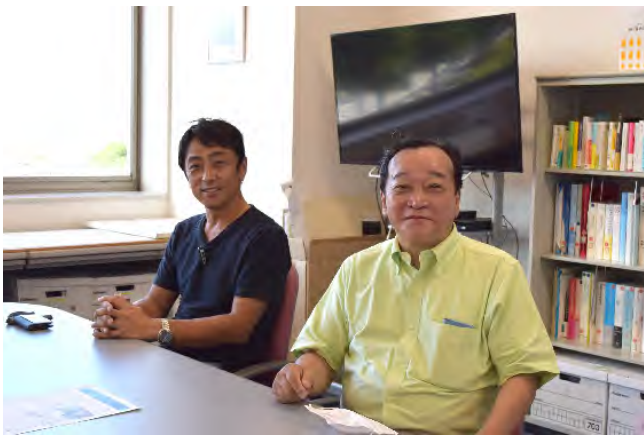
太田 「好き」だからですね。私はもともと黒澤醤油店さんの醤油のファンです。黒澤さんは醸造に杉樽を使っていますが、その理由を理解してから一層好きになりました。いい醤油を作るためにいつ、どんな仕事をしているのか、理解が深まるほど好きになります。黒澤さんの仕事ができるようになると、新しい補助金制度などいい情報を仕入れても、時間の猶予があれば繁忙期を避けて連絡するようになりました(笑)。

内情まで理解しているからこそその ピンポイントの的確な指摘

黒澤 何をしたいのか、どうなっていきたいのか、現状も含めて当社のことを分かってくれているというのは心強いです。理解してくれていないと、的確なサポートは難しいと思います。

例えば、補助金を使えるからと片っ端から申請しても、半分は自分たちで負担しなくてはならない。その分を取り返せるほどの効果が出るのか、太田さんは見極めたうえで紹介してくれます。





——ものづくり補助金はどのようなことに活用したのですか。

黒澤 ラベル貼りの自動化です。自動化したことで直売所等に人員をまわすことができるようになりました。人でなければできないところに人をまわすことで、全体として生産性が上がっています。

太田 なんでも自動化すればいいというものではありません。黒澤醤油店さんの良さを一層伸ばすための自動化でなければ。手仕事の良さ、伝統の良さを際立たせるために自動化できるところは自動化する。そのために適した補助金を取捨選択して紹介しています。

個人の消費者に向けた 営業方法に方向転換

——これからやってみたいことは何ですか。

黒澤 一步踏み出すと二歩目は自然と見えてきます。

今は醤油の加工品に力を入れ、市場を攻めるための武器を増やしています。

また、小売営業にも目覚めました。イベントに出店すると、個人のファンができます。そうした人たちが蔵に来てくれたり、買い物に来てくれたり。これまで見ていなかった客層です。こうしたお客様に満足してもらうため、直売所を作り、大型バスが入れる駐車場を整備し、さらにカフェも新設しました。

踏み出すたびに次の夢が生まれます。しかし、それを実現するにはお金が必要。その部分を支えてくれるのが太田さんです。

味噌や醤油は日本の文化。若い人たちに伝えていきたい。牛久大仏や那珂湊おさかな市場など観光地とコラボレーションして、工場見学に来てもらうなどしています。茨城＝黒澤醤油店となったら嬉しいですね。

やりたいことがあるなら コーディネーターを活用すべし

——太田コーディネーターに望むことは何ですか。

黒澤 これまで通り私が気づかない部分をサポートして欲しい。世の中にはいろいろな補助金があります。それらをつつひとつチェックして自社に使えるものを探すなどということは、忙しくてとてもできません。でも、当社のことをよく理解してくれている太田さんがいれば、当社にぴったりのものを提案してくれ、申請まで手伝ってくれます。

やりたいことがあるなら産業活性化コーディネーターを活用すべきです。夢をしっかり伝えてサポートしてもらいましょう。中小企業の社長はあれもやらなきゃこれもやらなきゃで、次の一手が打てません。中途半端になるのは一番ダメなので、結局はやらないことに。それでは成長していきません。

また、若い後継者もぜひ活用して欲しい。親に相談するとケンカになってしまいますからね（笑）。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介

太田幸孝（おおた ゆきたか）

機器開発、商品企画、各種補助金等の申請支援

医療用検査装置の開発、営業企画に従事。

海外勤務経験と国内中核病院400施設の訪問経験、および累計3万冊以上の読書量で得た知識があります。

補助金、助成金の申請実績多数。

申請を通じて、企業を支援します。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

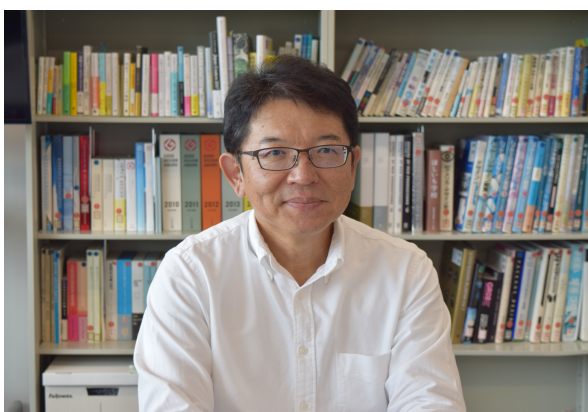
相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.4】

「“どこにでもできること ではないこと”を 積み上げていくチカラに。」

株式会社ニシテック 代表取締役 西川知潮さん



地元の情報提供が ありがたかった

——まず御社についてお教えてください。

西川 部品商社と設備の設計・製作を兼ねた会社です。部品商社としては、顧客である大手電機メーカーが要望する部品を国内外から調達し、自社にて品質保証をして納入します。

また、設備会社としては、ゼロベースで顧客のニーズをうかがい、それに沿った生産設備の設計・製作を行っております。最近ではロボットを使った自動機ニーズも増えてきました。

もちろん、そこで使用する部品は先ほど話した調達網で手配しております。

実は私は製造業とはまったくの畑違いの出身。保険会社に勤務し、転勤族でした。

一方、父親は個人で部品の調達をし、日立製作所関連の企業に販売するという仕事を会社定年後始めていました。これが当たり、法人化を検討することに。法

人化するにしても、父も60を過ぎていましたから、すぐに後継問題に直面することが目に見えていました。そこで、畑違いではありましたが、当時36歳の私と一緒に法人を設立し、その後社長に就任することになったわけです。44歳の時です。

——産業活性化コーディネーターとの出会いのきっかけは何でしたか？

西川 ひたちなかテクノセンターの存在は知っていましたが、何をしているかまでは知りませんでした。今、当社を担当してくれている貴志コーディネーターの前任の方が飛び込みで当社に来てくれたことがきっかけです。

私は、もとは転勤族なので全国に人脈はありますが、地元の中小企業仲間はいませんでしたから、地域に根ざした情報を提供してくれたことがありがたかったですね。

飛躍を助けてくれる ぴったり合った情報提供

——担当の貴志コーディネーターとはどのようなことに取り組まれましたか？

西川 先ほど“情報提供”と言いましたが、補助金はじめ種々情報をいただいたことで当社のチャレンジも大きく前進しました。

当社では今、「色柄センサー」というものを開発しています。これは人の目では判別が難しい色と柄の違いを瞬時に判別するものです。これによってマンパワーの負担を減らし、ヒューマンエラーを防ぐこともできます。

もう4年ほど開発していますが、その開発途中で、県や市の開発補助金を次々と紹介してもらいました。結果的にはひたちなか市の新製品等開発事業費補助金を使わせてもらいました。

開発の次は販売となりますが、横浜で開かれる展示会に出展するつもりと伝えたら、展示会に出展する時に使える補助金があると教えてくれました。

——補助金も多種多様で、支援する企業に今必要なものを紹介できるのもコーディネーターの腕の見せ所ですね。

西川 補助金の知識はもちろんです。貴志さんが当社をよく理解してくれているので的を射たアドバイスをいただいています。

当社は先ほど申し上げたように広く国内外の企業との取引をしておりますが、地場の企業と組んでやっていきたいと思う事業もあります。しかし、あまり地域の会社さんを知りません。

しかも、日立市からひたちなか市に来て、まだ3年です。

そこで貴志さんに「こういうことをやりたいんだけど」と相談すると、うまくマッチングする企業さんを紹介して下さいます。

また、貴志さんから「こういう装置を欲しがっている会社があるんだけど」と相談を持ちかけられて、それがビジネスにつながってあります。

いろいろな意味での情報交換をさせてもらっていることが非常に有難いです。

特殊なものを積み上げて 強固な会社づくり

——これから貴志コーディネーターと取り組んでいきたいことは何ですか？

西川 十分満足しているので、これ以上何かをやっていたらこうというのはちょっと思いつかないですね。

これまで同様、情報交換をしてもらえると助かります。世間話でもいいのでフラットに来て欲しい。世間話って重要で、例えば、コロナでまわりの状況はどうなっているのか、私にはよく分からない。貴志さんを通して話をうかがうことで、この地域のリアルな情報やこの業界に特化した情報を得ることができます。

——最後に今後の展望を聞かせてください。

西川 当社が開発中の色柄センサーはいろいろなところで使える可能性があります。微妙な商品の識別をこのセンサーで行えば、例えば製品出荷の際のヒューマンエラーを減らすことができるだけでなく検査の省人化も可能になります。

また様々な現場でも、目視で判別が難しい多品種の選択ミスを防ぐことが期待できます。

製造業の分野では、ベテランと言われる熟練工がどんどんいなくなります。若い人も入りたがらないので人手不足が恒常化します。一方でコスト削減も必須ですから「省人化」がキーワードとなってきます。そうした中から生まれるニーズを拾い上げて、色柄センサーに限らず、ロボットを活用した自動化設備製作等につなげていきたいと思えます。

会社の方向性という観点についてですが、「どこでもできるもの」というものは値段の叩きあいになってしまいます。

「どこにでもできるものじゃないもの」を積み上げていきたい。それは高度な技術、経験値、そして信頼性の上に成り立つものです。とくに社会インフラに関わる場合は、それらに基づいた顧客認定が必須になります。

特殊なもの一つずつ積み上げて強固な企業にしていきたいと思えます。

そして経営理念である「当社に関わるすべての人に更なる満足を提供する」を少しでも実践してまいりたいと思えます。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介

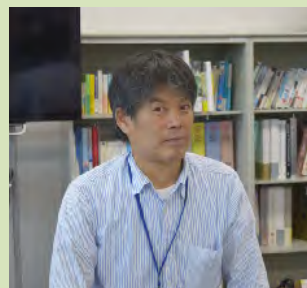
貴志亮介（きし りょうすけ）

販路拡大支援、各種申請支援、つくり方改善・工数削減提案

板金工作機械メーカーのサービス部門にてメンテナンスに従事。

その後、生産効率化のアドバイスも行う。

傾聴を心がけ、自分一人だけでなく官民間わず、クライアントの力になれる組織を巻き込んで、クライアントの悩みや希望に全力で応えていきたい。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.5】

「当社の強みを さらに強くする支援。」

株式会社根本鉄工 代表取締役 根本博さん



特色に強みがあっても 経営には課題も

——御社についてお聞かせください。

根本 鉄骨など建設用鋼材の設計から製造、設置まで一貫して行なっています。

また、鉄骨については取得した国交省認定のグレードにより対応できる構造物の規模が変わってきますが、当社はMグレードを取得しており、高層ビルの建築にも対応できます。そのためゼネコン各社の一時下請けとして、さまざまな建築物を手がけてきました。

実は設計から設置まで一貫してできる企業は少なく、当社の強みとなっています。

そうした中でも経営面では数々の課題があります。その点でコーディネーターの小宅さんに支援をいただいています。

——きっかけは何でしたか？

小宅 私が根本鉄工さんを支援したいと思ったからです。

というのも、根本鉄工さんには強みがある。もし的確な支援ができたなら、もっともっと強い会社になれる

という確信がありました。とくに効率や販路、近代化の面で支援できると思っています。

根本 いちばん最初にお願ひしたのが、ひたちなか市の中小企業技能訓練事業補助金の申請支援です。

これまでは従業員に任せていましたが、小宅コーディネーターのサポートをいただいたことで資金調達がラクになりましたし、それによって希望する従業員みんなが資格を取得できるようになりました。

社員の資格取得を支援 個人の成長は会社の成長

小宅 根本鉄工の皆さんが挑戦する資格はハイレベルなのでなかなか合格が難しい。そこで専門の教育者を紹介し、教育を受けてから受験できる体制にしました。派遣講師に対しても補助金を活用しました。

根本 従業員の資格取得を後押しし続け、ついに溶接管理技術者と建築鉄骨超音波探傷検査技術者に当社ではじめて女性従業員が合格しました。

資格を取得した従業員が増えたおかげで、品質管理や工程管理の精度向上につながってきています。

また、資格取得した本人の意欲向上だけでなく、周囲の従業員にとってもいい刺激になっているようです。

小宅 超音波探傷検査の資格については、女性が取得したというのは大変に稀です。もともと圧倒的に女性が少なく、女性が向上心を保つのは難しい業界です。その中であって「資格を取りたい」と意欲を燃やす女性社員があり、その意欲に根本社長が応えたかたちです。

会社として女性の活躍を推奨し、本人のマインドも上げていますので、今年のひたちなか市男女共同参画推進事業所表彰事業に申請しました。

根本 小宅さんには主だったものにはほとんど申

請していただいておりますが、いちばんは「ものづくり補助金」です。採択されるのは狭き門と聞いていますが、おかげで補助金を受け、最新のバンドソーを入れることができました。

その機械を使うことによって切断のスピードが上がり、かつ精度も高くなりました。後工程にいろいろとプラス面が出て、最終的にはコストカット、工期短縮につながっています。



伸びないはずはない会社 強みを生かした販路開拓を目指す

——小宅コーディネーターで良かったと思うことは何ですか？

根本 やはり親身になって指導していただいたことですね。

鉄骨業界もこれからは女性の力が必要になってくるでしょう。小宅コーディネーターの支援を受けながら、女性が資格を取れる会社組織にしていきたい。

小宅 労働人口が減少していく中で、女性が活躍できる環境を作ることは会社存続の鍵となっていきます。根本社長の「現業職においても女性が活躍できるように」という思いを知り、私は絶賛しました。女性も男性も関係なく、意欲があるなら誰にでも教育を受けさせ、資格を取らせ、向上心を刺激してあげたい、という思いは、従業員の帰属意識も良好なものにします。こういう環境からは必ずやいいものが生まれます。

——コーディネーターとして心に置いていることは何ですか。

小宅 短期長期それぞれにどういう課題があり、どういうニーズがあるのかを吸い上げ、タイムリーに最適解を提供していきたい。それがイコール、会社の成長につながればいいと思います。根本鉄工さんは設計、製作、設置まで一貫して行えるので、「伸びないはずはない会社」です。

価格競争に飲まれずに、根本鉄工さんの強みを最大限に生かした販路開拓に力を尽くしていきたいと思っています。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介 小宅 靖彦（おやけ やすひこ） 【よろず相談・支援のエキスパート】

生産管理改革、経営改革
生産管理システムの構築、拡販支援

大手企業・中小企業に勤務し、企業再生、経営革新、生産管理改革、販路開拓他、幅広く経験を積み、成果をあげる。
現在は、ひたちなか市産業活性化コーディネーター リーダーとして活動中。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部
〒312-0005 ひたちなか市新光町 38
TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.6】

「“これから”の優秀さを持った コーディネーターと 未来をつくる。」

株式会社あ印 代表取締役社長 鯉沼勝久さん



ハイブランドの「Mark A」を立ち上げ、
新しいタコ食文化を日本に

——まずは御社について教えてください。

鯉沼 水産加工の「あ印水産」の名でスタートした当社は私で3代目。平成19年に「あ印」と社名を変更し、水産食品メーカーとしてタコを中心し、イカ、エビを使ったオリジナル商品を開発、販売しています。

今は惣菜に力を入れ、農林水産大臣賞を受賞した当社の定番商品の「中華いか山菜」をはじめ、タコの扱いを極めた当社ならではの商品をラインナップさせた「海の食堂」シリーズを新ブランドとして立ち上げました。

——「海の食堂」シリーズはパッケージも洗練されています。

鯉沼 デザインもこだわっています。パッケージや Web ページは消費者とのコミュニケーションツールですから、コンシューマー・マーケティングの観点から現時点での最適解を選択しています。店頭で iPad を置き、レシピ動画を流すといった工夫もしています。

ホームページにはオンラインショップも設け、そこではハイブランドの「Mark A」を展開しています。当社のストーリーや独自製法の「うま味凝縮製法」の紹介とともに、「基本のごろっとプレミアムたこ飯」や「プレミアムたこ飯～香る山椒、米油仕立て」などの商品を販売しています。今後はここにスペインのガルシア地方のタコ料理“プルポ・ガルシア”風の料理を加え、タコの新しい楽しみ方を日本国内に広めていきたいと考えています。



ハイブランドの「マーク A」
ロゴマーク

“今までの優秀さ”以上に
“これからの優秀さ”に期待



——コーディネーターを活用して良かったと思う点は
はどんなところですか？

鯉沼 当社を担当してくれているのは太田コーディネーター。いい意味で“使い勝手のいい”コーディネーターです。

まず、上から目線ではない、ということ。コーディネーターは相応の経験や知識の積み重ねがあり、それが頼れるところではあるのですが、それだけに指導者然としたところがあるのではないかと感じていました。

しかし、太田さんはこれまでの経験や知識にあぐらをかくことなく、経験値から一歩踏み込んで、今のニーズをリサーチするチカラがあります。しかも、スピード感があり、タイムリーな情報を届けてくれます。

例えば、補助金の情報なども、この補助金は将来縮小するかも知れない、このチャンスを逃すわけには行かない、と情報を持ち込んでくれます。さらに、どのようにして申請を勝ち取るか、一緒に考えてくれます。

コーディネーターには、“今までの優秀さ”と“これからの優秀さ”の2つの側面があるように思います。現役時代にもともと優秀だった人たちがコーディネーターになります。それだけでなく、現在から未来に向か

って企業を具体的に支援できる優秀さこそが不可欠。太田さんにはそれがありません。太田さんが“これからの優秀さ”を持つ理由は、心構えの違いだと思います。企業のために何ができるかを常に考えていますから。

得手を理解することが 活用のポイント

——太田コーディネーターに望むことは何ですか？

鯉沼 うちのタコを食べてもっと健康的に痩せようよ！というのは半分だけ冗談ですが、いつまでも健康で、もっともっと長く当社のコーディネーターを続けて欲しいと思います。迅速に、そして精力的に当社のために動いてくれる、こういうコーディネーターは稀有な存在です。

これからも「あ印」のブランド化を二人三脚で進めていきたい。豊かな食生活を提案することで、当社の商品を手にした人々の人生を豊かにする一助になりたいと思っています。

やる気のある会社にはぜひコーディネーターの活用をオススメしたいです。きっといいアイデアをもらえます。

また、コーディネーターの得手を理解することがポイントです。太田さんは補助金の申請等が得意じゃないかな？と思ったら、やはり得意で、しっかりと成果を出してくれています。

補助金の申請書は、書くたびに事業においてやるべきことが明確になっていくので、将来的には補助金を得る以上の成果が出ます。一緒に未来をつかむという心構えのコーディネーターを選んで欲しいですね。太田さんのように。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介

太田幸孝（おた ゆきたか）

機器開発、商品企画、各種補助金等の申請支援

医療用検査装置の開発、営業企画に従事。

海外勤務経験と国内中核病院 400 施設の訪問経験、
および累計 3 万冊以上の読書量で得た知識があります。

補助金、助成金の申請実績多数。

申請を通じて、企業を支援します。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.7】

「目指すべき未来につながる 支援が心強い存在です。」

アポロアイシーティー株式会社 代表取締役社長 岩永美香さん



[オンリーワンの製品開発に
国や地方自治体の開発補助金を活用](#)

——まず、御社についてお聞かせください。

岩永 ソフト開発の会社です。創業して23年。私の代になって7年です。

——御社といえば「KOSEKIガイド」で有名です。

岩永 私がもともと市役所に勤務していたこともあり、役所の窓口業務の現場の手助けになればと開発したのが「KOSEKIガイド」です。戸籍受付の支援システムで、新任者でも1週間で即戦力にすることができるオンリーワンの商品で、法務省からも注目されています。

また、2018年には相続図を作るクラウドシステムの「相続ZU.pro」を開発しました。行政書士の皆さんの顧客獲得に貢献しています。

独自開発の他には、大手電機メーカーの計装インフラシステム開発などを行なっています。

——産業活性化コーディネーターを活用するきっかけは何でしたか？

岩永 国の「ものづくり補助金」の申請について市に相談したところ、ひたちなかテクノセンターをご紹介いただき、その流れでコーディネーターさんが来てくれました。今担当してくれている水谷さんで3人目です。ですから、ずいぶん長くお世話になっていませんね。

——今はどのように活用していますか？

岩永 まず、補助金等の申請に関わる支援です。「KOSEKIガイド」も「相続ZU.pro」も市の新製品開発補助金を使いました。

それから、様々な情報提供です。

例えば、企業情報。当社とマッチングできそうな企業を紹介してもらうなどしています。

また、補助金の情報もいただいています。当社はISO27001を取得していますが、その認定取得には数十万円かかりました。大変な負担でしたが、県の補助金を使うことができました。そうした情報をいただい





るのは、とても助かります。それから、今なら新型コロナ関係の補助金ですね。

水谷さんは当社のことをよく理解してくれていますので、あまたある補助金の中から、当社に該当するものを取捨選択して紹介してくれます。

また、どの補助金を使ったら当社が目指すべき未来につながるか、そこまで考えて紹介してくれます。とても熱心で、上っ面だけの支援ではないことが分かります。

コーディネーターを採用試験に同席 将来を見据えた人材採用の支援を

水谷 上手にコーディネーターを使っていただけだと思います。困ったらすぐに電話をいただけます。

それに、お手伝いするととても喜んでくださる。それがいちばんのやりがいになっています。

岩永 私はもともと市役所勤務で、システム開発の技術的なことは分かりませんでした。しかし、会社を大きくするためには、リーダークラスを採用しなけ

ればならない。その時に頼りになったのが水谷さんです。私と一緒に採用面接に臨んでいただきました。

面接では応募者と会話しながら、その人のキャリア、能力を見極めてもらい、技術はもちろん、それ以上にやる気をチェックしてくれました。

優秀な人材を輩出する学校と 縁が結ばれるインターンシップ

———今後、水谷コーディネーターに望むことは何ですか？

岩永 当社は若い社員の多い会社です。彼らには、5年後に本当に強い会社になるための「軸」になって欲しい。水谷さんにはそのサポートをお願いしたいです。

また、営業担当マネージャーの水谷さんに対する信頼は厚く、困ったときは電話しているようです。水谷さんも嫌がらず、そのたびに丁寧にサポートしてくれています。

若手といえば、水谷さんにはインターンシップ制度も紹介してもらい、茨城高専の学生さんをインターンシップとして招くことができました。直接すぐに採用につながるかどうかはさておいて、ご縁をいただけたことが大きな収穫です。また、IT短大の学生さんは実際に採用につながっています。

こうして将来を見据えた支援をしていただけることが何よりです。

また、当社では先ほどお話ししたように ISO27001 の認証を取っていますが、維持コストの負担も大きいので、水谷さんから団体認証の提案をいただいています。いかに経費を抑え、最大限の効果を得るかを考えていただけていることもありがたいです。

———ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介

水谷 啓一（みづたに けいいち）

開発設計（電子機器、部品）、プロジェクト管理
事業戦略、原価企画・原価低減

大手電機メーカーにて民生用電子機器の開発設計および製品化に従事。

また、社内の開發生産業務の監査や車載用電池の設計開発他も経験。

2018年よりひたちなか産業活性化コーディネーターとして、
中小企業を支援中。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.8】

「課題の指摘から 一歩も二歩も踏み込み、 具体的な行動を一緒に。」

有限会社高度技術研究所 代表取締役 清水勲さん



ニーズを見極め 情報を取捨選択

——コーディネーターを活用して良かったと思う点は
どんなところですか？

清水 小宅コーディネーターの的確な企業診断には驚かされます。課題を指摘することはコンサルタントにもできるでしょう。しかし、小宅コーディネーターはどこに誰に会いに行ったらいいのか、具体的にどこまで落とし込んでアドバイスしてくれ、実際に面会の段取りをつけて、そこまで連れて行ってくれます。しかも、スピーディ。誰に面会すれば販売に漕ぎ着けるか、適切な人物を探し、その人に渡りをつけるため、市外にまで広がる人脈を活用してくれます。

それに、伝える技術が素晴らしい。私は研究者ですので、例えば売り込むためのレジユメを1枚作るにしても自分の研究成果を1から10までびっしり詰め込

んでしまいます。しかし、それでは逆に相手に伝えるべきものが伝わりません。相手が知りたいことは何か、ニーズを見極めて、情報を取捨選択してくれます。

——具体的にはどのようなサポートを受けていますか？

清水 まず、企業持続化のための事業運営資金の調達支援です。

とくに今年はコロナ禍での給付金や貸付金の申請のサポートをしてもらっています。

また、技術開発や製品開発のための資金調達においては、市や国、金融機関などの情報を集め、当社に適したものを選び出し、どのように申請を行えばいいのか具体的に支援してもらっています。

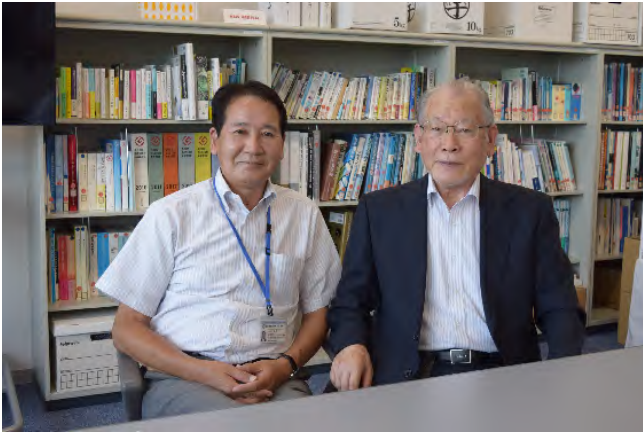
地域にとどまらず 全国に売り込みを

——御社のレーザー位相差顕微鏡は「メディカルクリエーションふくしま 2018」に出展し、テクノロジー部門で優秀賞を受賞しています。

また、超解像レーザー位相差顕微鏡を筆頭に、そこから派生する高度な技術や装置を多数扱っていますね。

清水 独自に開発した独創的な技術を持っていますが、それらは人に伝わらなければビジネスにはなりません。小宅コーディネーターは当社の技術をよく理解し、ニーズを発掘するとともに、マッチングを支援してくれています。

また、その際、入金条件の改善まで仲立ちしてくれるので、本当にありがたい。そうしたことができるのは、相手の企業と小宅コーディネーターの間ですでに



信頼関係が築かれているからです。このようなコーディネーターは他にありません。

「メディカルクリエーションふくしま 2018」への出展のサポートもしてもらっています。出展費用の助成情報を教えてもらったり、申請を手伝ってもらったりしました。今、レーザー位相差顕微鏡の小型化を進めていますが、来年の「いばらきデザインセレクション 2021」への出展も考えています。小宅コーディネーターは、そうした広報活動のサポートも頼れる存在です。これからは地域の中だけでなく、全国レベルでの売り込みにも期待しています。

グローバルニッチトップ企業を 目指して躍進

——御社と小宅コーディネーターの強力タッグで何
が実現するのか、これからワクワクします。

清水 経産省がグローバルニッチトップ企業を選

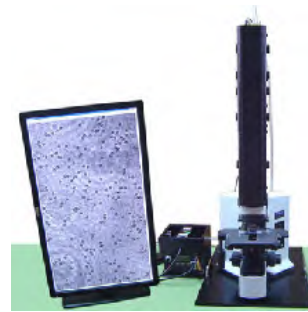
定していますが、当社も選定を目指しています。この選定は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材などの事業を有する優良企業を選ぶものです。当社のビジネスパートナーもまた、この中にあることでしょう。

このように、ニーズのあるところに流れるルートを探すサポートをこれからもお願いしたいです。

実際、病院や製薬会社等に市場調査を行なうなどして、当社の技術をどのように具体的な装置に落とし込めばいいのか、戦略を立てるサポートをしてもらっています。

技術開発力はあるですが、情報収集やニーズの発掘、資金調達法などは当社の不得意とするところです。自分なりにやっていますが、再点検して欲しい。会社経営の根幹をなすところですから、相応の信頼を置ける人物でなければ不安になりますが、小宅コーディネーターなら人情に厚く、地域の活性化に対する情熱にあふれて、人間性は申し分ありません。これからも一緒に歩んでいきたいと思います。

——ありがとうございました。



レーザー位相差顕微鏡

◆市産業活性化コーディネーター紹介 小宅 靖彦（おやけ やすひこ） 【よろず相談・支援のエキスパート】

生産管理改革、経営改革
生産管理システムの構築、拡販支援

大手企業・中小企業に勤務し、企業再生、経営革新、生産管理改革、販路開拓他、幅広く経験を積み、成果をあげる。
現在は、ひたちなか市産業活性化コーディネーター リーダーとして活動中。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート Vol.9】

「ニーズを先取りした アドバイスに期待。」

——— ありがとうグループ CEO 代表取締役社長 住谷まさ美さん

ありがとうグループ：株式会社S・F・Pサポート
株式会社ありが園
株式会社ライフ商事
株式会社はび・ねす
株式会社ライフ・プランニング
株式会社住谷公商店



[初めて知った産業活性化コーディネーター制度
マーケティングを得意とするコーディネーターも](#)

——— まずは御社について簡単にお聞かせください。

住谷 総合ライフコンサルティングカンパニーグループとして、現在6社がそれぞれの使命を果たすべく、事業を展開しています。

株式会社S・F・Pサポートは保険代理店とコンサルティング業務。株式会社ありが園は介護全般。株式会社ライフ商事は介護用品の販売。株式会社はび・ねすは放課後デイサービスや障がい者の就労支援事業。株式会社ライフ・プランニングは不動産業。そして、株

式会社住谷公商店は干し芋の生産と販売を行なっています。

——— 産業活性化コーディネーターを活用することになったきっかけから教えてください。

住谷 新型コロナでは当社も少なからず影響を受けました。そのため補助金の申請を行おうと市役所に相談に行き、そこで産業活性化コーディネーターの制度を紹介してもらったのです。

それまでコーディネーターの制度はまったく知りませんでした。渡されたリーフレットを見ると、工業系のコーディネーターがずらりと並んでいましたが、その中でマーケティングやビジネスモデルの構築を強みとするコーディネーターが一人。その人が木下コーディネーターでした。

[販路の新規開拓に加え
覆面調査で詳細なレポートも](#)

——— その後はどのような場面でコーディネーターを活用していますか。

住谷 木下さんの得意分野のマーケティングで力を発揮してもらっています。

この春、カフェをオープンさせましたが、来客数を増やすためのアドバイスをお願いしました。実際に当社の従業員には正体を隠して覆面調査をしてもらい、改善すべき点を洗い出してもらいました。接客や店内の雰囲気、BGMまで具体的に、詳細にレポートしてもら

ったので、すぐに改善指導をすることができました。

また、干し芋の商品開発では、販路開拓のサポート、Instagramなど情報発信媒体についてのアドバイスをお願いし、想定しているターゲット層となる女性たちを集めたモニター会議なども実施してもらいました。

——コーディネーターを活用したことで良かったと思われるところはどんなところですか？

住谷 まず、社内での効果ですが、同じことを言っても、私が言うのと第三者の木下さんが言うのとでは、社員たちの受け止めが違います。世の中の常識はこうなんだと素直に受け取れますし、専門家が話すことですから納得もできます。

そして、売上での効果。高級スーパーや有名観光施設に営業してもらい、実際に販路が拡大しています。

——木下コーディネーターから、住谷社長と一緒に二人三脚で補助金の申請書を書いていると聞きました。

住谷 私はチャレンジしたいことが次々とあふれ出て来て、なかなか整理し切れません。そこで木下さんが専門家の視点からそれらを整理し、申請に必要な情報を取捨選択して申請書にまとめてくれています。時には数時間に及ぶこともありますが、根気よくサポートしてくれています。

[必ずやってくるデジタル化の波
ニーズを先取りしたアドバイスを](#)

——今、イベントでも御社の商品は大人気です。

住谷 干し芋におきましては、今年はひたちなか市の推奨土産に選定されました。

また、JR東日本のおみやげグランプリにエントリー

し、結果は審査員特別賞を受賞することができました。来年はこれをきっかけにブレイクすることを期待しています。

干し芋を品種ごとに1枚ずつ個包装した「おもてなし箱」は、高級感があって品が良く、ちょっとした土産にぴったりと好評です。

海外にも売り出して欲しいというありがたいお誘いをいただいておりますが、当社はまだHACCPやIFS（国際食品規格）の認証をまだ受けていません。デジタルでも安心して注文いただけるISO27001（情報セキュリティマネジメント認証）にも着手しました。早くこれらの認証を受け、私自身胸を張って、自慢のカンパニーとなれるよう頑張っています。

——これからもコーディネーターを活用する機会が大いにありそうです。

住谷 菅政権はデジタル庁を新設しようとしています。遅れていると言われていた日本でもデジタル化が加速するでしょう。生活リズムがガラリと変わる、と考えておいた方がいいかも知れません。

木下さんには、今、私たちが取るべき対策は何か、ニーズを先取りしたアドバイスをこれからもお願いしたいです。

私はもともと管理栄養士。食品の衛生面に対しては一家言あります。おいしいのは当たり前として、衛生面と安全性で差別化して販売していきたいと思っています。

また、会社もコロナ禍の後、よりバージョンアップしたカンパニーを社員全員で目指して邁進してまいります。

——ありがとうございました。

◆市産業活性化コーディネーター紹介
木下隆之（きのした たかゆき）
組織戦略と販路開拓のスペシャリスト

技術系の仕事に従事し、27歳のときに自ら営業職に転身。その後転職により様々な業界を経験し、営業マンからプレイングマネージャー、マネジメント職へとステップを踏む。製造、IT、サービス業向けにコンサルティング、人材教育、事業再生の実績多数。経営コンサルタントとして活動する傍ら、2020年4月よりひたちなか市産業活性化コーディネーターとしても活躍中。スピード重視、成果コミット型スタイルで変化に強い組織づくりをサポートします。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

相談
無料

市産業活性化コーディネーターをご活用ください

【市産業活性化コーディネーター活用事例レポート vol.10】

「コーディネーターと話す 10分間が 次の10年につながる。」

有限会社石井畳工業 畳一級技能士 石井淳一さん



話すうちに気分がすっきりし
考えもまとまっていく

——天保14年創業の畳専門店。石井さんで6代目という老舗中の老舗です。担当は貴志コーディネーター。活用のきっかけから教えてください。

石井 当社のHPを作る際、市の補助金を利用したのですが、その時にコーディネーターの紹介を受けました。以来、コーディネーターと二人三脚で事業拡大をはかってきました。

貴志 私は前任のコーディネーターから、歴史ある大事にしたい企業さんだからマメに足を運んで欲しいと言われて引き継ぎました。石井さんに限らず、中小企業の経営者の皆さんはプレイングマネージャーなので忙しく、情報収集の時間が取れません。現状の課題や将来の展望などをうかがい、必要な情報の提供を行っています。

石井 日々の仕事に追われて同じ作業を続けているとマンネリ化し、気持ちも減入ってきます。そんな時に貴志さんが来てくれると、わずか10分程度の時間でも、貴志さんに話しているうちに気分はすっきりし、いつ何をすべきか考えもまとまってきます。

——最近、貴志コーディネーターに話しているのはどんなことですか？

石井 これからのことですね。当社では2015年から襖や障子など建具の貼り替えも始めました。

生活の洋風化で2010年頃から畳のある家が減り始めています。そのため畳プラスαの事業を考えてきました。畳のある部屋には襖や障子がつきものなので、和の空間すべてをプロデュースできる企業になろうと考えています。

畳にもいろいろな商品をいち早く取り入れていきたい。同業他社のHPやYouTube動画などを毎日閲覧して、ヒントを探ろうとしています。

また、新しいことを手がけるときには補助金による経済的なサポートが助かります。貴志コーディネーターには補助金情報も頼りにしています。

企業への深い理解が
的確な情報の“ふるい”を可能に

——ちまたには情報が星の数ほどあふれています。

石井 貴志コーディネーターは私が知らない情報を届けてくれます。私自身でも日夜いろいろ情報収集はしていますが、貴志コーディネーターはそれらをつるいにかけて、当社にぴったりの情報だけに絞って届けてくれます。忙しい身にはありがたいサポートです。



当社に何度も足を運び、表面的でなく当社の事業や財務、ビジョンを深く理解してくれているからこそ的確な“ふるい”がかけられるのだろうと信頼しています。

——これから貴志コーディネーターと進めたいことはなんですか？

石井 畳は長年使っていると、畳周りの敷居との間に段差ができたり畳と畳との間に隙間ができたりします。業者によっては廃棄し、新しく作り直すことを勧めたりするのですが、実は物によっては手縫いで修正することができます。業者としては新しく作り変えてもらった方が利益は出ますが、お客様のことを考えれば比較的安価で済む張替えをご利用いただいた方がいい。

しかし、一般には張替えという手段があまり知られていません。また、張替えができる職人も少ない。私も含め、当社では畳一級技能士が畳職人として技術をふるっていますが、このことを周知し、他店との差別化につなげていきたいと思っています。

来訪3回目 私自身が変わった

——コーディネーターを使ってみたいという企業にアドバイスはありますか？

石井 日々の仕事に追われていると、思考も行動もマンネリ化していきます。そんなときにコーディネーターに来てもらうと、思わぬメリットがあります。

実は、最初の来訪の際、「この忙しいときに」と少し迷惑に思いました（笑）。

しかし、3回目ですら私自身が変わりました。

自分の悩みや考えをコーディネーターに話していると、ひらめきがあります。前日に見たYouTubeから得られたヒントなど記憶の片隅に追いやられ、忘れられていたものがふっと出てくるんです。

コーディネーターから「最近どうですか」などと質問されるとしっかり応えなくてははいけませんから、考えながら話しているうちに、いつもは考えなかった領域まで深く考え、そこで新たな気づきを得られることもあります。

わずか10分、15分の来訪です。どんなに忙しくても、それくらいの時間は取れるでしょう。その10分が未来の10年につながりますよ。

——ありがとうございました。



◆市産業活性化コーディネーター紹介

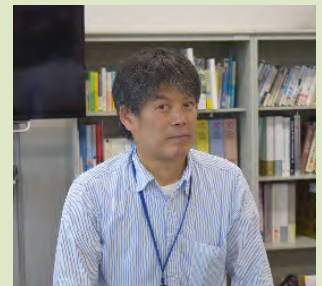
貴志亮介（きし りょうすけ）

販路拡大支援、各種申請支援、つくり方改善・工数削減提案

板金工作機械メーカーのサービス部門にてメンテナンスに従事。

その後、生産効率化のアドバイスも行う。

傾聴を心がけ、自分一人だけでなく官民間わず、クライアントの力になれる組織を巻き込んで、クライアントの悩みや希望に全力で応えていきたい。



株式会社ひたちなかテクノセンター企業支援部

〒312-0005 ひたちなか市新光町 38

TEL:029-264-2200(代表) FAX:029-264-2203

